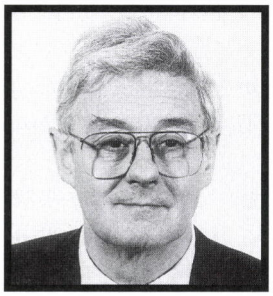
名誉会員追悼



故　名誉会員　Julian Szekely 君

社団法人日本鉄鋼協会名誉会員 Julian Szekely博士は1995年12月7日ご逝去されました。

氏は1934年ハンガリーの首都ブダペストで生まれ、1956年に勃発したハンガリー動乱に際しては祖国のためにその戦に身を投じ、動乱の抑圧後はやむなく英国に渡り、1959年、Imperial Collegeの化学工学科を卒業し、61年には同大学からPh.Dが授与されました。引き続き同大学のDept. of Metallurgyの講師を務めた後、1966年アメリカに渡りState University of New York at BuffaloのAssociate Professorとなり、68年にはProfessorに昇任されると共に、Center for Process MetallurgyのDirectorを兼務されました。1975年にはMITの教授に任ぜられProcess Metallurgyの世界における第一人者として活発な活動を続けてこられました。

氏は鉄鋼製錬プロセスの移動現象論的研究において、先駆的役割を果たし、さらに、鉄鋼製錬以外の素材製造工学の分野においても、同様の手法を駆使した理論を展開し、素材工学における“移動速度論に立脚したプロセス解析”の学問体系を確立されました。移動現象論による鉄鋼プロセスの研究は、日本の鉄鋼業が急速な発展を遂げた1960年代から70年代に亘って展開され、我が国の鉄鋼技術の革新に大きく寄与いたしました。これらの成果は、氏の研究における指導的役割に負うところ大であります。特に、今日、プロセス設計や解析にあたって必須のツールとなっている流体運動の数値解析については1970年代のはじめに着手し、その端緒を拓かれました。さらに、材料電磁プロセッシングの分野についてもほぼ同時期に着手されておられます。このように、20年以上以前に今日の技術動向を予見し、その分野の先駆者となられた氏の開拓的研究姿勢は他の研究者の追随を許さないものがあり、素材プロセッシング分野の第一人者であることを誰もが認める所以であります。

氏は数百にのぼる研究論文の他に多数のテキストを執筆されましたが、それらのうち“Rate Phenomena in Process Metallurgy”と“Gas - Solid Reactions”の2冊は日本の大学においても教科書として採用される等、鉄鋼関連の研究者、技術者に計り知れない影響を及ぼした名著であります。

氏のもとで直接研究指導を受けた日本人は18名にのぼり、我が国の鉄鋼関連の学界あるいは産業界に多大の貢献をされておられます。一年前の本会創立80周年記念式典の際に名誉会員に推挙されました折には、お元気なお姿で“Industrial Ecology and Steel Technology - A Challenge for the 21st Century”と題するYukawa Memorial Lectureをされましたことは記憶に新しいところであります。日本語を交えたウイットに富んだお話と前傾姿勢で演台上を左右に動き回る独特のスタイルは、氏の飾らないお人柄を端的に現しておりました。

今日、我が国の鉄鋼業においては鉄鋼プロセスの革新が強く求められておりますが、今こそ、深い洞察力に裏打ちされた氏の見識が必要とされる時に、突然、お別れを余儀なくされることになりました。しかし、氏が我が国に残された大きな足跡は多くの研究者、技術者によって鉄鋼プロセスの変遷の中にあっても、かならずや受け継がれてゆくことでしょう。

名誉会員Prof. Julian Szekely博士の偉業を偲び、会員一同心から追悼の意を捧げ、ご冥福をお祈り申し上げます。

1996年3月

社団法人　日本鉄鋼協会　会長　佐野信雄